

情報提供 「広島県におけるがん検診受診率向上対策事業について」

広島県健康福祉局 がん対策課長 金光義雅 氏

広島県では、がんで年間約3万人が死亡し、年間死亡者数の約3割を占めており、昭和54年から死因の1位となっている。新たにがんと診断される人は、年間で2万人を超えている。男性のがんの1位は胃がん、女性の1位は乳がんになっている。

広島県では、平成25年3月に第二次広島県がん対策推進計画を作成し、がんで死亡する県民の減少、また、がんになっても自分らしく豊かに生きる地域社会の実現を目指し、①がん予防 ②がん検診 ③がん医療 ④緩和ケア ⑤情報提供・相談支援 ⑥がん登録の6つの分野を柱として県内どこでも隙間のない総合対策に取り組んでいる。

がん検診の目標としては、平成28年度までにがん検診受診率50%以上を達成するよう取り組んでいる。直近の受診率を見ると、平成25年の国民生活基礎調査結果では3年前と比較し、大腸がんが13.9ポイントも上昇するなど、5つのがんすべてで大幅に受診率が上がったが、依然として50%には達していない。市町のがん検診受診状況では平成24年度と23年度を比較して、ほぼ横ばいの状態。市町でも受診しやすい環境づくりに取り組んでいただいているが、厳しい状況が見られる。

広島県のがん検診受診率向上の取り組みとしては、無関心期には普及啓発の推進、関心期には個別受診勧奨の推進、準備期には受診しやすい環境づくりを行い、県民の意識に応じた取り組みを行っている。

まず、普及啓発では、平成24年度からはデーモン閣下を啓発特使に起用して、ポスターやイベントを通じて、がん検診の受診を強力に呼びかけている。今年度は、5月に福山ばら祭りに参加された多くの市民に対して啓発キャンペーンを行った。これまでの啓発キャンペーンの効果についてインターネット調査を行った結果、デーモン閣下を起用し始めた頃の認知度が46.9%だったのに対し、直近では83.4%に上がるなど、がん検診の認知度や関心度は、着実に県民に浸透してきている。今後は、関心を持った方を受診行動に繋げていく事が課題となっている。

次に、個別受診勧奨の取り組みでは、大腸がん検診未受診者に対し、「デーモン閣下から届くハガキ」13万通を送付するなど、未受診者への受診呼びかけを行っている。また、県民に身近な受診勧奨として、県医師会と県薬剤師会のご協力をいただき、「がんよろず相談医」として福山、府中地域で100名、「がん検診サポート薬剤師」として福山、府中地域で50名の先生方に活躍いただいている。さらに、地域の取り組みとしては「がん検診推進員の養成」を行っている。市町のボランティア、民間企業の社員の方等を対象として、講習後に認定証を交付し、推進員には社内の同僚や家族、ご近所などにがん検診の受診を勧めてもらう。

また、今年度から企業との連携を強化する取り組みとして、全国初となる「チームがん対策ひろしま」登録制度を設けた。地域の皆様と社員の命を守る企業として、がん検診の推進、がん予防の推進、がん患者団体への支援、がんにかかった社員に対する就労支援を企業自らが行う、そのような企業を登録する制度。平成26年度の第1期登録は14社。平成27年度も第2期募集を予定しており、登録企業の拡大を図っていきたい。

引き続き、市町、医療関係者、事業者と連携を図りながら、がん検診受診率向上に一層取り組んでいきたい。